

# 『朱漆山水楼閣人物沈金皿』修理報告

安里成哉<sup>1</sup> 土井菜々子<sup>2</sup>

## I. はじめに

本資料は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の『朱漆山水楼閣人物沈金皿』である。

令和3年4月5日より令和4年3月31日まで沖縄県立博物館・美術館修理修復室内の琉球漆工藝舎にて修復が行われた。修復にあたっては、安里成哉を担当職員とし、土井菜々子を修復責任者兼担当者とした。

## II. 修理報告

### 1. 名称

朱漆山水楼閣人物沈金皿(4客)



### 2. 員数・法量(mm)

寸法：一 径 225.0×高 38.0  
二 径 224.5×高 42.0  
三 径 225.0×高 41.0  
四 径 226.0×高 42.5

---

<sup>1</sup> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室 琉球文化財研究係 係長

<sup>2</sup> 琉球漆工藝舎 代表

### 3. 資料概要

木製、朱漆塗りに沈金が施された丸皿。表面から高台外面にかけて朱漆塗り、高台内面は黒漆塗り。鐳部は、内外面共に二重界線を廻らせ、その内に犀角、軍配、磬、瓢箪、巻物、分銅、古銭、葉の吉祥紋が七宝繁ぎの地紋の上に配される。見込みに山水楼閣人物、高台に青海波をそれぞれ沈金で表す。人物の顔には箔絵技法が併用され、さらに黒漆による付け描きが施されている。

### 4. 損傷状態

4枚共に、塗膜はわずかに黒ずみが見られる。見込み部分は、薄葉紙が付着した跡が色ムラとなって残る。

資料一 見込み中央にごくわずかな亀裂が見られる。鐳と見込みとの接合部には、1/3周ほどの亀裂が入る。高台は、一部損傷が見られ、過去に修理が行われている。

資料二 見込みに大きく木地亀裂が2本入り、そのうち1本は、裏にまで達している。鐳縁には、2箇所塗膜の損傷が見られる。

資料三 見込み中央にごくわずかな亀裂が入る。その他、硬いものが当たった様な小さなくぼみや黒色の汚れが見られる。見込みと鐳との接合部には、1/2周ほどの亀裂が入り、その亀裂が鐳部にまで及ぶ。

資料四 見込みの中央に1箇所、鐳と見込みとの接合部に数箇所、小さな亀裂が見られる。

### 5. 修理方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修理に則り、現状保存修理を原則として行う事とする。修理に際しては、充分に事前調査を行い、傷み等の現状を確認した上で修理工程を決定する。また、写真撮影を伴った修理の記録を取り、修理後と比較できるようにし、修理終了後報告書を作成し提出する。

### 6. 修理作業

はじめに修理後との比較ができるよう、修理前撮影および現状調査を行った。資料二の皿は、見込み部分に新たに亀裂が入ったことが確認された。2020年10月に行なった紙繊維除去作業時には見られなかった亀裂が2021年4月の搬入時に1本見られた。またそれから20日ほどの間に、さらに2本目の亀裂が入った。

塗膜汚れを取り除くためのクリーニングは、基本的に水を含ませた柔らかな木綿で拭き上げるが、カビや油分を含んだ汚れなどはアルコールを用いて除去した(図1)。



図1 クリーニング

クリーニング後、劣化した塗膜の弾力と艶を取り戻すための漆固めを行った（図2）。作業は溶剤で希釈した漆を塗膜面に塗布し、表面に漆が残らないよう拭き取った。その際、沈金部分に漆が入らないよう細心の注意を払った。同時に木地および下地が露出した部分や構造の亀裂部にも生漆を含ませて補強した。



図2 漆固め

漆固めが乾く間に、塗膜押さえのための準備を行った。各修理部分の形状に合わせて、アクリル板や木型を加工した治具を作成した。見込みと鏝との接合部に見られる亀裂には麦漆を複数回含浸して補強を計った（図3-1, 3-2）。

見込み中央に見られる亀裂は、同様に麦漆を含浸させ、溶剤を揮発させた後、木枠と竹ヒゴを使用して安定を計った（図4-1, 4-2）。鏝部の損傷部分は、剥離塗膜の下に麦漆を含浸させクランプを用いて接着を行った（図5）。



図3-1 麦漆含浸



図3-2 麦漆含浸



図4-1 木枠を使用した塗膜押え

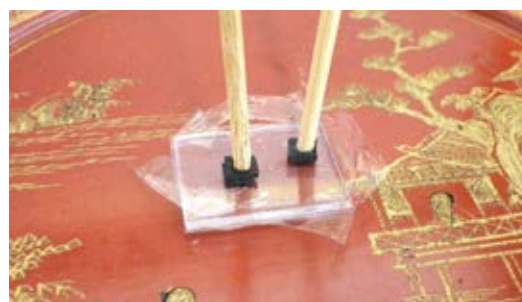
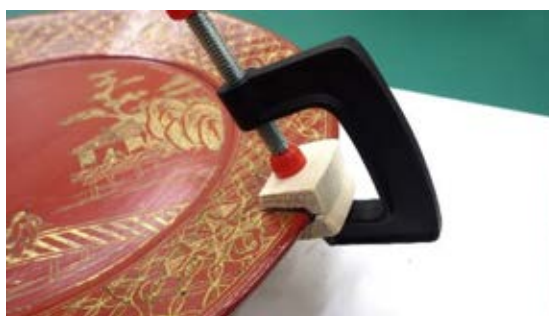


図4-2 木枠を使用した塗膜押え（部分）

図5 クランプを使用した塗膜押え



資料一の皿は、高台の畳ズリ部分に過去に行われた修理の下地がオリジナル塗膜の上に付着している箇所があり、これは可能な範囲で除去した。除去作業は、細心の注意をはらい、刃物を用いて表面を削り、薄く残った下地を布で拭取った（図 6-1）。下地除去後、亀裂部に麦漆を含浸し、補強した。

亀裂部、塗膜の段差部分、高台の過去の修理部に下地を施し（図 6-2）、下地が乾固した後に表面を整え、漆固めを行った。

見込み部分の色ムラには、摺漆を施し、塗膜の艶を調整した。朱塗面の色変化が無いよう配慮し、溶剤で希釈した透漆を使用した。



図 6-1 下地付け拭き取り



図 6-2 下地付け

最後に、修理後の撮影を行い、報告書を作成した。

## 7. 修理工程

- (1) 修理前写真撮影・調査
- (2) クリーニング
- (3) 漆固め
- (4) 塗膜接着
- (5) 麦漆含浸
- (6) 刻苧充填
- (7) 下地付け
- (8) 摺漆
- (9) 修理後写真撮影・報告書作成

## 8. 修理場所

沖縄県立博物館・美術館内修理修復室

## 9. 修理期間

令和3年4月5日～令和4年3月31日

## 10. 所見

- ・形状の特徴から、鐔部は、巻胎構造であることが考えられる。
- ・人物の顔部分に使われる箔絵の下付には、黄色漆が使われる。

修理前修理後写真



全景 修理前



全景 修理後



表面 (資料四) 修理前



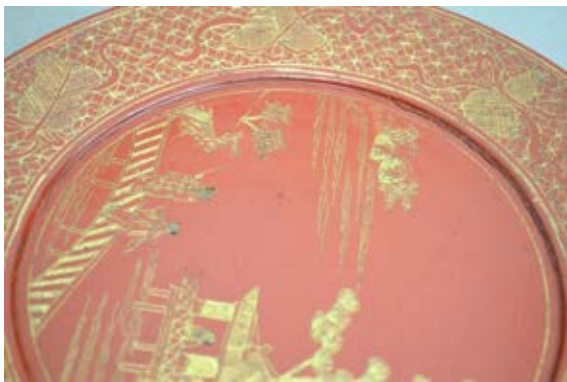
表面 (資料四) 修理後



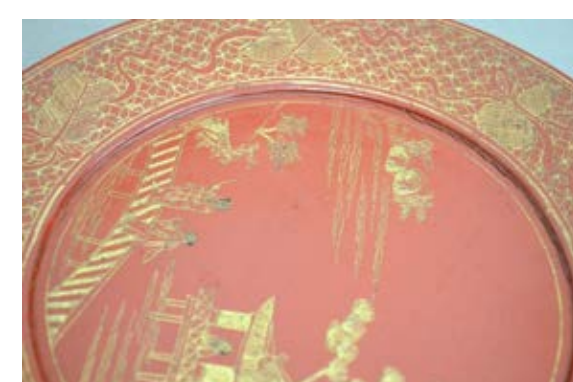
裏面 (資料四) 修理前



裏面 (資料四) 修理後



亀裂 (資料三) 修理前



亀裂 (資料三) 修理後



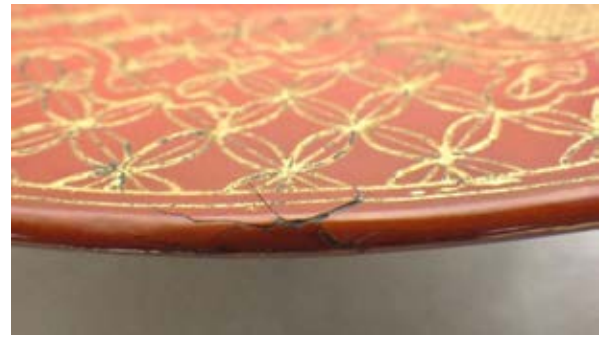
亀裂 (資料二) 修理前



亀裂 (資料二) 修理後



鍔縁 修理前



鍔縁 修理後



鍔縁 修理前



鍔縁 修理後



高台 修理前



高台 修理後